

太田篤さん追悼文集



(太田篤氏 facebook より)

公益財団法人 留学生支援企業協力推進協会

太田 篤さん 追悼文集

目 次

協会関係者	(敬称略・五十音順)	
「太田篤さんを偲んで」	小島 邦夫	2
「太田さんの思い出」	濱口 敏行	4
「追悼文（太田さんを偲ぶ）」	横尾 敬介	7
「太田さんとの11年」	渡辺 道夫	8
社員寮入居留学生	(敬称略・五十音順)	
「太田さんとの思い出」	温 ビチャン	10
「遠き別れに たえかねて」	韓 吉新	13
「太田さんとの3回の関わり」	陳 媚 (CHEN MEI)	14
「追悼メッセージ」	楊 森	16
社員寮入居留学生OB・OG	(敬称略・五十音順)	
「異国のお父さん」	王 軼超	17
「太田さんとの思い出」	顧 艷君	18
「社会貢献の遺志を引き継いで、行動に」	崔 子鵬	20
「令徳唱高言 識曲聽其真」	周 晨亮	22
「太田さんとの思い出」	徐 玉	23
「太田さんの追悼文」	代 晴	25
「太田さん！いままでありがとうございました！」	陳 伊	26
「引き継いだ言葉」	陳 思遙	28
「太田篤氏への感謝」	鄭 語璿	30
「太田さん、今まで大変お世話になりました」	羅 瓊	31
「太田篤様へ感謝の言葉」	HOM BAHADUR RIJAL	33
文集発刊に沿えて	岡地 俊彦	34
太田 篤氏 略歴		35

太田篤さんを偲んで



日本証券金融 名誉顧問 小島邦夫
(留学生支援企業協力推進協会 元理事長、前評議員)

私が経済同友会での活動を開始したのは1997年でしたので、事務局職員であった太田篤さんのことはもちろん存じ上げていましたが、太田さんと日々接するようになったのは、経済同友会の専務理事に就任した2006年からでした。同年に留学生支援企業協力推進協会(以下、留学生協会)の理事長を拝命したことで、当時、経済同友会で政策調査を担当する傍ら、留学生協会の専務理事・事務局長を兼任されていた太田さんに、設立経緯から事業継続の厳しい状況についての報告を受けることになりました。

実は、私自身、留学生協会の理事長に就任するまでは、この団体の概要をよく理解しておりませんでした。1985年に経済同友会が発表した意見書『世界に開かれた活力ある国土の形成を求めて』(田淵節也委員長)における、草根の国際化を国民運動として展開するために提唱したニッポンプログラムの一つとして実現したものでした。主にアジアを中心とした外国人留学生を日本企業の社員寮に受け入れる取り組みが提案され、他の経済団体の熱心な支援の下にこの留学生協会が設立されたこと、設立にあたり当時の文部大臣が経済同友会を訪れ、代表幹事に感謝の意を示したこと、なども太田さんから伺いました。

当時は日本の内なる国際化として、いかに外国人留学生を呼び込み、親日家を増やして日本に取り込んでいくとともに、国内にいながらも日本人が他国の優秀な人材とネットワークを持ち国際化していくことが国としての課題でもあり、民主導の先進的な取り組みは経済界や政府からも注目されていました。

太田さんはこの立ち上げのときから関わり、2004年より専務理事・事務局長として留学生協会の業務に専念されることになりました。設立時の盛り上がりは徐々に影を潜め、企業からの社員寮の提供や賛助会員の減少が続いていました。そして2009年から2011年にかけて政府からの補助金も絶たれ、危機的な状況に直面することになりました。追い打ちをかけるように事務所の転居も余儀なくされ、私も微力ながら、事務所移転の協力をいたしました。

このような中、経済同友会で育った太田さんは、政府に頼らずとも民間の力でできることをやっつけていけばよい、という考えに基づき、自ら企業へ働きかけて社員寮を増やしていき、留学生へ提供することに懸命に取り組んでいました。さらには、企業側と留学生とが情報交換できる場や、日本企業に就職した元留学生が日本で働く際のアドバイスをする場を設けることや、経済同友会会員を巻き込んで留学生に向けた講演会を開催するなど、精力的な活動を続けました。こうした太田さんの努力が実を結び、2013年に公益財団法人として第2のスタートを切ることができ

ました。

太田さんが骨身を惜しまず、留学生に真剣に向き合い、支えてきたことは、留学生の皆さんが一番よく分かっていることと思います。温かくも時には厳しいこともしっかりと伝えて、親身になってサポートをしてきた太田さんを慕い、集まってくる留学生も多かったのではないかと思います。卒業後も留学生協会に恩義を感じて、今も寄附を続けてくれているOBもいると聞いています。こうした太田さんの熱心な取り組みを通じて、政府の留学生協会に対する見方も多少は変わってきたのではないかと私は思っています。

自費留学で苦勞しながら日本に学びに来る外国人留学生の宿舎をどうすべきかは、本来、国が考えることです。それを民間企業の社員寮という枠組みを活用して、留学生がアルバイトに明け暮れることなく、勉学に励める時間を提供するとともに、日本人との生活の中で、お互いの文化を理解していく、という協会の軸となるこの取り組みは、非常に素晴らしいものです。しかし、人の面倒をみるというのはそう簡単な仕事ではありません。当然リスクもありますし、報われないことも多い。だからこそ、熱意をもって、懸命に支えていく人がいないと、こうした事業は成り立たないのです。それが太田さんでありました。

足元ではコロナ禍による若干の減少があるかもしれませんが、外国人留学生は増える一方で、2020年を目途に留学生30万人の受け入れを目指すという政府目標も2019年に達成されました。社員寮が減少傾向にあるといわれて久しいですが、むしろ、社員寮に対する考え方を見直し、増やし始めている企業もあります。海外留学した人は、現地の方々に面倒をみてもらった経験があるでしょう。日本に來ている外国人留学生を日本企業やその社員が支える機会を持つことは、日本にとっても非常に有益なことではないでしょうか。

太田さんが使命感をもって取り組まれたことは、今後さまざまな形で効果が出てくるはずです。太田さんのやり残してきたこと、遺志を引き継いでいくことは、容易なことではありませんが、留学生協会が社会に必要とされる限り、この協会を生んだ経済同友会や経済界が積極的に関与して事業を継続していくべきではないかと考えます。

私は太田さんがこんなにも早くご逝去されるとは夢にも思いませんでした。貴重な人材を失ってしまった悲しみは今も癒えることはありません。太田さんのやる気に満ち溢れ、澆刺とした笑顔が今も目に浮かびます。アジアとの懸け橋となられた太田さんの功績を私たちは忘れることはないでしょう。心からご冥福をお祈り申し上げます。



留学生協会の事務所にて
卒業記念パーティー

(2013年)

2020年7月13日

『太田さんの思い出』

(公財) 留学生支援企業協力推進協会評議員
ヒゲタ醤油株式会社相談役
濱口敏行

今年の初めの2月7日に突然太田さんの訃報をうかがった時の驚きは忘れられません。あの元気な太田さんがどうして？ 昨年9月には留学生を連れられて、銚子に來られ、私共の工場の見学をされました。私は事情で一緒出来ませんでしたでしたが、打ち合わせのお電話でお元気な声を伺ったのが、最後になるとは、何とも言えない複雑な思いに襲われました。

太田さんとのお付き合いは、私が、2000年に経済同友会に入会したときに始まりました。それ以来20年にわたり、お世話になりました。私が2001年に同友会の幹事になってからは、委員会や幹事会でよくお目にかかり、お話したものです。

太田さんはとにかく熱血漢で、よく勉強されており、事務局の論客のおひとりでした。こちらがひとつ話すと10ぐらいの答えが返ってきました。面白い方でしたし、また啓発されました。

2009年の5月には、留学生をインタビューに行かせるから、当社の歴史、経営方針、日本の経営とCSRなどについて話をしてほしいと頼まれ、中国からの留学生の方たちでしたが、楽しい会話をした事を思い出します。2009年6月に私が、留学生支援協会の評議員になってからは、さらに深いお付き合いをさせていただきました。

2014年の9月には、太田さんから、留学生を連れてゆくので、工場の見学をさせてほしいと依頼されました。工場見学のあと犬吠埼にあるぎょうけい館という旅館で、昼食を皆さんとともにして、大変楽しいひと時を過ごしました。

それ以来私どもの工場には、数回こられました。必ず留学生の皆さんの感想文を送ってくださり、大変参考になりました。

また銚子は東京より若干遠いので、近隣の見学も含めて、2日間の日程にして、宿泊は犬吠のぎょうけい館にしたいとおっしゃるので、それはいいアイディア

ですね、留学生たちも温泉宿で一泊して、くつろげれば、とてもよい懇親になるのではないですかと申し上げました。それ以来、上総方面には2日の日程で来られています。

太田さんの留学生に接する態度は真摯で、実直で留学生一人ひとりの事を考えて、親のように相談に乗っていらっしゃいました。あの太田さんの留学生一人ひとりに対する情熱には素晴らしいものがあったと感じます。

太田さん亡き後、留学生支援協会をめぐる社会環境は厳しいものがあると思います。国の支援はない、企業の所有している独身寮はますます少なくなっており、コロナの影響で、留学生は厳しい経済状況に置かれています。

もちろんグローバル化の進んだ今各大学の留学生のための独身寮とか、民間の宿泊施設は昔に比べれば、はるかに整えられてきていますが、なんといっても留学生にとってのコスト、負担はものすごく大きく、この留学生支援協会の社会に対して果たしている役割も以前にもまして、大きいものがあると感じています。

最後にあの熱血漢太田さんの築かれてきた支援協会の社会的責任を守り、さらに発展されること、また各経済団体の皆様の更なるご支援をお願いして、私から太田さんへの追悼の言葉とさせていただきます。

太田さん やすらかに ！



追悼文(太田さんを偲ぶ)

横尾敬介(前 留学生支援企業協力推進協会 代表理事)

太田君が、「私に会いたい。どうしても話をしなければならぬことがありますので」と急な連絡が入り、急遽、二人だけで会ったのが、2019年9月のことである。「肝臓がんが進行しており、他の臓器への転移もある。担当医からは、余命3か月～6か月と告知されている。家族と相談の上、手術はせず、緩和ケアを受けるつもりです。」との説明を受けた。私は、驚愕すると同時に、太田君の冷静で、しっかりした口調で語る姿に、敬意にも似た感動が私の胸に溢れてきたことを覚えている。

太田君と知り合ったのは、2015年の春、私が、公益社団法人 経済同友会 副代表幹事・専務理事に就任するとほぼ同時期に、お役目として、公益財団法人 留学生支援企業協力推進協会 代表理事に就任した際、まさに太田君が同協会を支える立場の専務理事として、私を迎えてくれた縁である。

初対面で「声が大きく、はっきり物を言う人だな」との印象を強く持ったが、その後、協会の仕事を通じて、会議、面談、打合せ、パーティー等々の機会を得、太田君の人となりに接してみると、私の印象は大きく変わっていくことになる。親愛の情を込めて言えば、「噛めば噛むほど味が出る」タイプの人。

お付き合いをしていく内に、協会に対しても、留学生一人一人に対しても、かなりの情熱を持って、取り組んでいる人だなあと、感じるようになりました。一方で、留学生、事務局職員、とりわけ、留学生に対しては、何かあれば、親身になって相談にのっており、また、時には、顔の浮かない留学生にやさしく語りかけたりして、まるで自分事のようにサポートしていた。

ある時、太田君に「君は、なぜ留学生達にそこまでするのか」と、尋ねたことがある。太田君は、少し照れた顔して、こう答えた。「彼ら、彼女らは、当たり前ですが、言葉は勿論のこと、価値観、考え方、慣習、文化等々、全く環境の異なる国で、チョットしたことが原因で、トラブルを起こすこともあるだろうし、困り果てることもあると思う。私は、留学生達みんなが、日本を好きになり、出来れば、日本で就職し、日本にこれからも住んでほしいと、願っています。たとえ母国へ帰ったとしても、私達のことを、日本のことを思い出してほしいし、日本のファンであり続けてほしいと思います。だから、協会のできることを、私自身ができることを、すべてをしてやりたいと思うのです。」と。

昨年の秋、太田君の病、それに対する方針等を語る気丈な姿勢と留学生達に対する情熱と優しさに触れていただけに、遂に、今年2月、悲報に接し、痛惜の念でいっぱいでした。

留学生達にとって、親代わりであり、兄代わりでもあった太田君、早過ぎる旅立ちで、ご家族の悲しみ、落胆は、如何ばかりかとお察し申し上げます。でも、きっと、旅先から、これからも、ご家族のことは勿論のこと、留学生達へ、持ち前の情熱とやさしさを心に、見守ってくれていると、信じています。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

太田さんとの11年

渡 辺 道 夫
(元事務局次長)

太田さんは、解決が難しい課題が出てきても、じゃあどうすれば解決に近づくことができるのか、とあきらめずに前へ進む人でした。

ビザの延長ができずに困っている留学生のために、直接法務大臣に掛け合って在留期間を変更する法改正のきっかけを作ったり、勉学や生活資金に困っている留学生には、外国人留学生の支援をしている財団の知人に頼んで特別支援を実現したりと、太田さんは常に留学生の立場に立って考え、行動する人でした。

私が太田さんに初めて出会ったのは10数年前の協会の会議の席上です。この会議は、協会が出席者に諮問し、意見を伺い事業の円滑な遂行に反映していくことを目的として開催され、現在も続いています。この席上で、太田さんの発言等から外国人留学生に対する熱いものを感じたことを思い出します。

その後、国立大学で外国人留学生や日本人学生の留学のサポートの仕事をして、リタイアを目の前にした私に、太田さんから協会にお誘いをいただきました。すでにこの国立大学からリタイア後は留学生の相談窓口の仕事をお願いされていましたが、いろいろ考えた末に太田さんのお誘いに乗ることとしました。

それから11年余り、振り返ると短いなと感じます。太田さんはこの間、外国人留学生に対する情熱を失わず前へ前へと進んできました。

協会は、設立以来文部科学省（旧文部省）や経済産業省（旧通商産業省）から補助金を交付され、また多くの寄付金をいただいて事業を展開してきましたが、

途中、政府の予算の合理化などにより補助金が停止し、困窮状態になったのです。10年ほど前まで日本橋の目の前の西川ビルにあった事務所は、家賃が払えなくなるような状態となり、格安の事務所を求めて太田さんと探し回る事となりました。そんな中、太田さんから相談を受けた小島元理事長から、同じ日本橋1丁目にあるビルの一部を紹介していただきました。これが現在の事務所です。ここは西川ビルの事務所の倍の広さがあり、留学生に対するセミナーや諸会議等を外部の施設を借りずに開催することができ、年間数百万円の予算を節約できるようになったのです。

また、運営資金が乏しくなり、基本財産の取り崩しを考えていた協会に、太田さんの知人を通して、ある方から遺贈として3億円もの寄付をしていただいたこともありました。

太田さんの広い人脈や情熱がなければ協会の窮地を救うこのようなことは起きなかったと思っています。

太田さんと話していると、よくふるさとのことが話題にのぼりました。

子どものころ田んぼのあぜ道でよく遊んだこと、多くの種類の野鳥がやってくること、家の庭の大きな柿の木のこと、ふるさとの久留米の街や高校時代の思い出・・・などをなつかしそうに話されていました。

また、この(2020年)3月末をもってリタイアし、しばらくはふるさとでゆっくりすごしたいとも話されていました。ご実家で一人で暮らす母上のもとで、しばらくはゆっくりしたかったのだろうと思います。

しかし、その夢も潰れてしまいましたが、太田さんは今、ふるさとの空で安らかにすごしているに違いないと思います。

太田さんとの思い出

温 ビチャン
野村證券(株)南行徳明生寮
コニカミノルタ(株)パークアスパイアーズ
早稲田大学

いまだに信じられないですね、あのお元気な太田さんが、亡くなられたことは。私が太田さんに出会えたのは、大学2年の時、住居探しに困っていた時に、留学生支援協会のお蔭で社員寮に入ってからのことです。

社員寮に入ってから、最初の顔合わせで、太田さんは、今までの協会の歴史や、これから社員寮に入る留学生への思いを述べていただきました。元気で明るく話されている太田さんの姿を見て、「このおじさんは本当に面白い」と純粋に思いました。後でこの話を、友達になった協会留学生にしたら、彼も「確かに、太田さんは面白い人だね」と笑いながら話していたのが記憶に鮮明に残っています。

その後、私は太田さんが好きになり、協会で開催するイベントに積極的に参加することになりました。その際には、機会があれば、太田さんに話をかけたり、色んな質問をしたりしました。

いまだに覚えていることですが、電車で偶然、帰り道が太田さんと一緒に、彼と色んな話題で会話をしていました。その時に彼が「今も早稲田の演劇博物館、学生が遊びに行っているのか」とか、「昔は、10号館には、学生がいっぱい集まっていたけど、今もそうなのかな？」など、早稲田生じゃないと知れないことを色々と話していただいて、「なぜ太田さんは、こんなに早稲田に詳しいんだろう」と思っていたのが、後から彼も早稲田大学出身であることを知り、腑に落ちました。

彼は仕事上、留学生を平等に接する義務があったので、わざわざ出身校とかも明かさず、今まで仕事をされてきたのかと、後で考えて納得しました。

政治の話になるととても熱血になるのも、今考えると、やはり早稲田出身だったからだ、納得しました。(笑)

そして、縁あって彼が毎月参加されている勉強会にゲストとして誘っていただいて、韓国について話をすることもありました。過去屈指の大企業で仕事をされた後、引退されたとても知的な方々が多い勉強会でした。その日も、勉強会の帰り道で、僕が「最近山本七平の本を読んでいます」という話をしたら、彼が経済同友会時代に、山本七平を招いてセミナーを開いたときの思い出、山本七平さんと二人でした会話の内容を話してくれました。いまだに覚えているのが、早稲田駅について、私が先に降りることになったにもかかわらず、山本七平さんの話で盛り上がり、駅の改札まで彼がついてきて話をしてくださったことです。今考えると、彼のような人は、他にはいませんでした。(笑)

彼は、熱い男でした。僕は20代ですが、彼と話していると、僕のほうがもっと年寄りなのではないかと錯覚するほど、彼は熱い男でした。

その後、事情あって別の会社の社員寮に移ることになった時も、太田さんに、全ての面倒をみていただきました。本当に尽きないほど、彼にはお世話になりました。

新しい社員寮に移り、協会の活動にも、しばらく顔を出せなくなり、就職活動に専念していた時、太田さんが亡くなられたことを、協会の先輩留学生から伝えられました。その時は、とても衝撃を受けました。

2020年になり、コロナウィルスの感染拡大で、世の中が大きく変わっています。太田さんのお別れの会も、延期になりました。私は、コロナウィルスの急速な拡大で、急に帰国することになり、就職活動、学生生活、協会での活動を含めて、全て予想がつかない留學生活の局面を迎えました。

幸いに、留学生支援協会と支援企業のサポートのお蔭で、志望先の会社から内定をもらいました。内定が決まった後、すぐに協会にも国際電話で感謝の言葉を伝えました。太田さんがいてくださったら、ぜひ、その感謝の言葉を、伝えたかったです。

今は、我々協会関係者だけではなく、世界的に生活が困窮している人が増えるなど、殆どの人に対して非常に危機的な時期であると思います。コロナウィルスで、太田さんのお別れの会も延期になってしまいましたが、この事態が終息したら、ぜひ、また太田さんご家族、留学生のみなさん、協会の皆さんにお会いして、お話をする機会をいただきたく存じます。

太田さんが、人生を通じて、達成したがった、人生の目標は何だったのでしょうか。私は、彼から直接聞いたことはなかったので、推測にすぎないですが、彼が達成したかったことは、彼の行動から推測することができるのではないかと思います。

彼は、やはり「弱者、疎外された者を、助けてあげたい」という思いがあったのではないかと思います。留学生を支援するなど、30年前の日本ではなかなか主流ではなかったはずの事業のリーダーとして、こんなに長く、大変な仕事、きつい仕事を選んで、直近まで、勤勉に勤務されてこられました。お金のためなら、名誉のためなら、違う仕事もあったはずですが、彼は、わざわざ、留学生を支援する事業に取り組んでくださいました。

私が留學生活中、読んで印象に残った本に、内村鑑三が書いた『後世への最大遺物』という本があります。その本の中で、「どんな人生がいい人生なのか」に対して、内村は「勇ましく高尚な生涯」を最も価値のある人生であると述べ、「生き方」を後世へ残すことが、お金を、書作を残すことよりも意義の深いものであると、書いています。

私は、太田さんご本人の思いだったのかは存じ上げておりませんが、彼の人生が、まさに「勇ましく高尚な生涯」だったのではないかと思います。彼は、一度も嘘をついたり、自分が思っていないことを口にするなどの行為はされませんでした。

今まで、彼にお世話になった留学生は、一人二人ではなく、数百数千人にのぼると思います。異国で、異質的なものを触れながらも、何か価値のあるものを得ようと、今でも多くの学生が、世界各地で留學しています。我々留学生支援協会に所属されている留学生は、日本という国を選び、太田篤という人物にお世話になりました。そして、我々は、いつか必ず、

世界中のどこかで、人の役に立つような仕事を任される立場に立つかもしれません。もしそのようなことができれば、我々も、いずれは、「勇ましく高尚な生涯」をおくることができるかもしれません。

もし、私がそのような生涯を送ることができた、一人前の人物になったとしたら、それは

「100円、200円という少額のお金でも、
どうか節約しながら留学生活を終えようとしたときに、
太田篤という男が助けてくれたからだ。
あなたの、思いの込められた仕事のお陰様で、今の自分がある。」

というこのことを、胸に残して、忘れないようにして参りたいと思います。
太田さん、ありがとうございます。
また、どこかで、お会いしましょう。

令和2年 7月 20日
早稲田大学政治経済学部4年
温ビチャン

「遠き別れに たえかねて」

韓 吉新

三井物産㈱ 新葛西寮
早稲田大学

留学生支援企業協力推進協会専務理事・事務局長・故太田篤殿に、当協会の元で四年余りお世話になった一留学生として、謹んでお別れのご挨拶を申し上げます。こうして太田さんに弔辞を捧げることになり、誠に残念で、惜別の思いで今でも心が崩れそうです。

2月7日に訃報を受けたとき、俄かに信じ難く同じメールを何度も読み直しました。それでも何かの間違いだと思い、同じく協会でお世話になった友人に同じメールが届いたかを尋ねた後、心が鉛のごとく沈んでしまいました。それほど突然の出来事だったのです。最後に太田さんにお会いした昨年12月20日では、いつも通りに気さくな感じで私達と接してくれて、いつも以上に私達の事を考えてくださいました。「達筆だね」と万年筆を使う私を褒め、「私も大事に使っている万年筆を持っているよ」と自分の宝物を自慢する太田さんの微笑みが今でも目に浮かびます。それが、私と太田さんの最後の会話でした。願わくは、もっと色々お話を聞きたかったし、人生相談もしたかったです。

同じ早稲田出身のため、太田さんに対して以前から親近感を抱いていました。また、家族が遠く離れた海の向こう側にいる私達にとって、気さくに接してくれる太田さんの存在はかなり大きかったです。異国での生活は私達にとって期待を膨らませたと同時に、「異文化に溶け込むことができるのか」、「うまくここでの生活に馴染むことができるか」のような不安も積もります。私が「留学生支援企業協力推進協会」に所属したのは2016年後半からで、ここでは日本の舞踊や出張授業などの日本文化に深く触れる機会があり、金銭面で余裕がない私達留学生に社員寮を紹介してもらいました。協会での出来事の一つ一つが私を色々な面で助けてくれました。協会の設立に参画した太田さんへの感謝の言葉が絶えません。

これから協会に行くとき、いつもそこに座っているはずの太田さんの姿がなく、ユーモアが絶えないお話が聞けないと思うと、悲しい気持ちでいっぱいになります。ここ数年頑張ったおかげでやっと博士号を取れるのに、朗報を伝えることができる方が一人減ったと思うと、虚しくて切ないです。多分私以外の協会でお世話になった皆さんも同じ考えです。

時が移り、また紅葉の季節がやってきました。バトンタッチされた次世代の私達は太田さんの分まで今もこれからも頑張って協会を支えていきたいと思えます。そして太田さんが誇れる人として世界で活躍したいと思えます。どうか暖かく私達を見守っていてください。

今までたくさんの微笑みや温もりをどうもありがとうございました。太田さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

韓 吉新
2020年9月11日

太田さんとの3回の関わり

陳 媚 CHEN MEI

富士ゼロックス㈱ラフィネ小豆沢寮

明治学院大学

太田さんの訃報を突然に受け取った際に、大変驚きました。2019年11月の活動でなんの異常もみられなかった人が、ただ4ヶ月後にこの世から去ることをどうしても信じられませんでした。とても悲しく感じます。

社員寮に入居するきっかけで、太田さんに出会いました。今年、社員寮に入居する3年目になりますが、太田さんと会うのが3回しかありませんでした。2018年7月の入居説明会、2018年11月の出張授業と2019年11月のカルビー・日光東照宮・首都圏外郭放水路の見学の3回です。

太田さんとの第一回目の関わりは2018年7月の入居説明会です。この説明会でどんな立派な人と出会うのか、自分の下手な日本語でうまく意思表示できるのかなど、出席する前に不安や緊張な気持ちを抱えていました。実際に参加して、太田さんや渡辺さんと私たち留学生は机を囲んで、お弁当を食べながら、自己紹介を交わしました。説明会の雰囲気柔らかく、不安な気持ちも解消されました。また、太田さんは友だちのように、留学生の一人と一緒に喫煙所でタバコを吸ったりしました。このような上下関係にこだわらないやり方に驚きながら、感心しました。この説明会で、私たちは太田さんに、「困ったことがあったら、どんなことでも私たちと相談して」と言われました。支援協会は住居サポートに止まらず、留学生活のあらゆる面をサポートしてくれることを感じました。ここは私たちを心強くしてくれる拠り所だと思いまいました。

そして、太田さんのお勧めで、2018年11月の出張授業に参加しました。しかし、授業テーマの設定に失敗し、生徒の反応が薄く、授業にいい結果を得られませんでした。太田さんは落ち込んでいた私に、「授業の内容より、自分を盛り上げることが大切だ。自分を盛り上げれば、その熱意もきっと生徒たちに伝わるからね」と言いました。その助言を踏まえて、今年の出張授業でもう一回チャレンジしたいと思いますが、コロナの感染拡大で、活動の実施が非常に懸念されます。

太田さんとの第三回目の関わりは、一年後のカルビー・日光東照宮・首都圏外郭放水路の見学です。一年間も会わなかったのに、太田さんは私の名前、学校、学年、入居している寮まで覚えていて、これから進路のことについても相談に乗ってくれました。私のような影が薄い人のことでも、そこまではっきり覚えてくれて、心がとても温かく感じます。また、東京駅前で解散した時に、太田さんに「管理人さんに送るお土産が買った？」と聞かれました。無言な私を見て、太田さんはご自身のお土産の分まで私に分けてくれました。日本での学業や進路から、生活や人との関わり、礼儀に至るまで、考えてくれるのは太田さんです。

この追悼文に、思い出として太田さんの写真を入れようと思いました。しかし、アルバムを探しても、太田さんをはっきり映している写真を一枚も見つかりませんでした。あったのはこのこっそり撮った写真しかありません。参加



した活動限りに、確かに太田さんは一度も集合写真に入ったことがなく、いつも後ろで支えてくれます。

いつも支えてくれてありがとうございます。これからも、一心不乱に学業に励むことを決心します。ご冥福をお祈り致します。

追悼メッセージ

楊 森

三井物産(株)新葛西寮
法政大学

ご生前のご功績と温情が偲ばれます。太田篤前専務理事・事務局長は私の恩人でありました。どうぞ安らかに永眠されますようお祈り申し上げます。

太田様と二回しかお会いしたことがありませんでしたが、太田様の豪快な笑顔は永遠に私の心に残っています。

社員寮へ外国人留学生を受け入れる契機となった提言「21世紀日本プログラム」を担当され、1989年には「留学生支援企業協力推進協会」の設立に参画した太田前専務理事・事務局長のお陰で、私は社員寮に入寮できて、最大の危機に乗り越えました。

2018年9月、私の父が働いた会社は経営不良の原因で倒産しました。父も当然失職になって、唯一の収入源がなくなり、家計は非常に困難な状況になりました。私立大学で通っている私はアルバイトで学費を払うのは不可能です。家から支援も期待できず、退学しようと考えました。一番ピンチな時期で公益財団法人 留学生支援企業協力推進協会に出会え、日本での大学生活を続けられますようになりました。

今の私は社員寮に入寮した日からちょうど一年経ちました、経済面の心配がなくなり、自信を持って毎日進歩できるように努力しています。太田篤前専務理事・事務局長、公益財団法人 留学生支援企業協力推進協会に出会えて、私は幸せです。

社会に貢献できる人材になるために、私は頑張り続けたいです。

ご冥福を心から祈っております。太田篤前専務理事・事務局長、本当にありがとうございました。安らかにお休みください。

異国のお父さん

王 軼超

(元) キッコーマン(株)大阪紫雲寮

(元) 関西学院大学

私は王軼超と申します。2008年関西学院大学総合政策学部卒業しました。2006年から2008年まで、キッコーマン株式会社西宮市の大阪紫雲寮でお世話になりました。今ニュージーランドウェリントンのTOKYOFOOD CO,LTDで働いています。

太田様が他界に行った連絡が入り、青天の霹靂でした。太田様の姿は頭に浮いて、一生忘れられないと思います。初めて太田様にあったのは、留学生支援の懇親会でした。名前どおり(篤の意味は真心がこもって念入りである)、親切で穏やかな姿で、お父さんの感じでした。

留学生支援協会のお陰様で、生活の負担だいぶ減らし、勉強に専念し、社員寮の先輩方にもコミュニケーションが出来て、日本の留學生活にとって、非常に貴重な体験でした。太田様の紹介を頂き、トヨタ自動車、日産自動車、キリンビール及びニチレイ食品など工場見学して、日本のモノ作りの強さに対して、肌で感じました。そのときからは是非日本で就職して日本のモノ作りを学びたい決心しました。

就職活動で様々な情報を留学生支援協会及び太田様から入手して、参考になって、非常に助かりました。面接で失敗したり、筆記試験で落ちたり、就職活動でへこんでしまった時、いつも太田様から励ます言葉を頂きました。就職活動は結婚と同じ、焦らずに縁が必要、ミスマッチがよくない、あなたならやればできると太田様から激励され、面接失敗した原因を分析して、次回の面接のために万全の準備をして、やっと就職成功しました。

日本の留學生活で楽しいこと悔しいことよく懇親会で太田様と話して、意見を受けて、まるでお父さんの存在でした。JAPANTENTの写真で、太田様少し痩せて疲れ気味様子を見て、留学生支援のために、あちこちで動いていた姿を思い出して、感動しました。

お父さん 天国でお元気で頑張ってください。

太田さんとの思い出

顧 艶君

(元) 株みずほ銀行 目白寮

(元) 上智大学

大学四年生のころ、社員寮に入り、夏の Japan Tent で初めて太田さんと出会いました。とてもフレンドリーな方で、学生時代のエピソード、恋バナもいろいろ話してくださいました。自分は基本わがままだと主張している太田さんはとてもチャーミングでした。

出会ってから、人生の節目にいつも太田さんがいました。就職、結婚、出産、帰国、いつも「君なら大丈夫」と励まされてきました。私にとっても、太田さんはお父さんのような存在でした。

社会人になってから、時々悩み相談に乗っていただきました。その中、太田さんが話した「過去は現在によって変えられる」という言葉はとても印象的でした。苦い経験でも、未来がいい方向に向かえば、過去の事はいい結果に向かわせるための一つの要素だと考えられます。どう生かすによって、過去の事は本当に良かったのかどうか見方も変わります。この言葉のお陰で、失敗しても、前向きの姿勢で前進できるようになりました。

最後に太田さんに会ったのは、昨年12月でした。日本に行く前にメールのやり取りで、病状を知らされました。何を話して、どう慰めればいいのか全然わからなかったのですが、ただ、ただ、会いたい一心でした。夏頃、会ったときよりずいぶん痩せてました。病気を知ったきっかけ、病状の進捗、治療法とか冷静に話してくださいました。病気のことよりも、一番気にかけていたのは、協会の後任者でした。「うちの協会は、留学生支援企業協力推進協会という名前です。留学生支援が先で、それを第一に考えられる人がほしいです。」と太田さんが言いました。この言葉を聞いて、胸を打たれました。最後の最後まで、留学生のことを考えてくださった太田さんに、感謝しきれない気持ちでした。協会設立のきっかけは、震災後身寄りのない留学生たちを支援するためです。この何十年間、社員寮のお陰で、生活負担が軽減され、学業に専念できた留学生はたくさんいます。本当に、みなさんには心から感謝しております。

生涯かけて、留学生を支援するという信念を貫く太田さんから、学べる事は山ほどあります。それは私の財産と宝物です。自分の人生で生かしていきたいです。

太田さん、お疲れさまでした！本当にありがとうございました！

写真添付：

2017年、OGとしてJapan Tentに参加した時、家族と太田さんの記念写真です。



社会貢献の遺志を引き継いで、行動に

崔 子鵬 (サイ シホウ)

(元) トヨタ自動車(株)東山寮

(元) 名古屋大学

時の流れが早いと申しますが、2020年2月7日に太田篤様のご逝去からもう半年経過しました。

太田様は生前、社員寮へ外国人留学生を受け入れる契機となった提言「21世紀日本プログラム」を担当され、2004年度から「留学生支援企業協力推進協会」の専務理事・事務局長に就任されておりました。長い間、私達日本に留学しに来た留学生たちを無償に支援していただき、生活面や仕事面でもアドバイスをしていただいた、とても立派な方として世に模範を示されておりました。

私は太田様の訃報を伺い、驚いておりました。最後に太田様にお会いしたのは2019年11月16日でした。当時鈍感な私は太田様の言動から健康的な支障を感じておりませんでした。太田様の亡き後、私は生きる意味を改めて考えてみました。

この世に生まれてきた皆様はいつか死が訪れてきます。星空を見上げる科学者でも、人間社会を観察する哲学者でも、己の精神を極めて表現する芸術家でも、お偉方でも一般人でも、死を避ける方法はわからないし、避けることもできません。それなのに、人間はなんのために生きていくのでしょうか。大自然のルールを見つけるためにとか、この世の流れを知るためにとか、一番美しいものを作るためにとか、人の尊敬を得るためにとか、普通に家族と幸せに過ごすためにとか、千人に聞いたら千種類の答えがあります。むしろ世界で一番簡単な質問ではないでしょうか。ただし、一番簡単な質問でありながら一番難しい質問にもなります。その理由は、人間はなぜ生きていくのかという質問には正解がないかもしれません。

人生は苦しいものです。これだけはどなた様に聞いても、答えは同じでしょう。知りたいことが多すぎて、全て解明することができません。欲しい物も多すぎて、全て手に入れることができません。嫌いな人はいつも身の回りにいます。好きな人といつか必ずお別れになります。それなのに私達人類は大昔から頑張って生きてきました。今より遥かに厳しい環境と戦いながら生きてきました。無意識でも意識的でもみんなあることをやってきました。それはより良い環境を作ることです。代々の先祖達は力を尽くして、目に見える財宝と目に見えない知識や文化などを残してくれました。人生意味の正解はわからないかもしれないけれど、このことは正解に導くヒントになります。それは、私達はみんな次世代の人のために生きていき、頑張っています。

ニュートンの偉業でアインシュタインを育ちました。孔子の思想を孟子は引き継ぎました。ダ・ヴィンチの『モナ・リザ』は美術家だけではなく、全人類に影響していると言っ

でも過言ではありません。数え切れないご先祖様のおかげで、私達は豊かで安全な日々を暮らしています。太田様もそのご先祖様の一人で、私達留学生の貧しい学生時代を援助するために力尽くしていました。その恩情一生忘れることはありません。いつか恩返しで、太田様が大切にしていた「留学生支援企業協力推進協会」のお力になりたく思います。また、いつか太田様が示していただいた社会貢献の道に歩み、太田様の遺志を引き継いで、行動にしようと思います。人の体は消えても、人の志は消えません。例え数十年後、数百年後に太田様のお名前が忘れられたとしても、その志は代々の人に引き継がれて、人類の発展とともに永遠に流れていきます。

今の私は微力ながら社会貢献のための力になりたいと思います。

大変無遠慮なことを申し上げましたが、これで追悼の言葉に代えさせていただきます。

「令徳唱高言 識曲聴其真」（令徳、高言を唱えば 曲を識りて其の真を聴く）

周 晨亮（しゅう しんりょう）

（元）富士フイルム(株)みどり寮

（元）東京工業大学

「恩返しなどしなくても良い」

仰った後の太田さんのさっぱりとした表情は未だに目の裏に焼き付いて消えていない。

2009年の7月11日に北京でOB会が開かれた。帰国して大学の教壇に立つと瞬く間に一年の月日が過ぎ、襟を正して報告に伺ったが気楽な同窓会だった。日本言語文学科に就職した自分は今後日本との懸け橋になる人材を育成することで日本の方々、協会と太田さんに恩返ししたいと告げたが、皆さんそれぞれの良き人生のために支援しているのであって、日本のためになどとはとりわけ望んでいないと、思いがけない言葉を太田さんから頂いた。

一人一人の夢の花を咲かせてこそ教育、太陽を追いかけるひまわりを育てるよりも花々が咲き乱れる花畑を作りたい。そんな太田さんの懐の深さに感銘を受けた。漢末に作成された古詩十九首の「今日良宴会」という詩に、「令徳唱高言 識曲聴其真」という句がある。高德の長者が曲を通して卓論を発表するが、その曲に潜む真意を聴き取れるのは良き理解者のみという意味合いだった。その日に出席しているOBの方々に、きっと太田さんの期待と励ましが伝わっていたはずだ。

今、太田さんから頂いた六枚の年賀状を眺めながら筆を執っている。太田さんと協会のご紹介頂いた富士フイルム様のご厚意を賜って横浜市の寮に住んでいた頃から、毎年太田さんへ年賀状を通して近況を報告してきた。「お元気ですか」という直筆による挨拶を見ると、太田さんの笑顔が自然に浮かび、北京での一期一会の夜に思いを馳せている。

「奄忽随物化、栄名以為宝」（人間とは忽ち物化するもので、令名こそ永遠の宝として後世に残される）。太田さんとの思い出は一生の宝、そして太田さんの令徳、令名が令和の時代に響くことを切に願っている。

「太田さんとの思い出」

徐 玉

(元)富士ゼロックス(株)ラフィネ小豆沢

(元)文化学園大学

時間はあっという間に半年もすぎました。お亡くなりメールをいただいた時は、本当に声も出なく、何かの見間違いではないかと思い、驚きました。そして最後お会いになられた時より、昨年 8 月の JAPANTENT で笑っていらしゃった太田さんの顔が浮かんでました。

金沢の会場内で、太田さんとお話しました。わずか何ラリーの会話が一番印象深く心の中に残りました。その後も 300 名以上の留学生たちとそのホームステイ先の方たちの前で、太田さんは少しお話しました。

その時の写真です。(写真は次のページに添付させていただきます)

そして最後は年末の退寮セミナーでした。

その日もほぼ最後まで人生の道について、相談をいただきました。また、社会人として落ち着いたら、お話を続けたいと思いました。

お世話になっていたのはわずか 2 年ですが、太田さんはいつも真剣に留学生たちの悩みを聞き、不安が日常茶飯事の留学生にとっては、毎回お元気で明るい声を持つ太田さんとの会話が楽しみにしていました。

本当にありがとうございました。

JAPANTENT (太田さんは登壇しています)



「太田さんの追悼文」

代 晴

(元) 日産自動車(株)パルクヴェール日産

(元) 駒澤大学

太田さんの悲報に接し、深い悲しみに包まれております。

コロナの影響で、お別れ会もできず、このような形で、お別れを告げることになってしまい、大きな痛みを感じております。ご遺族の皆様のことを思いますと、お慰めの言葉も見つかりません。

太田さんの病気を知り、学生時代に太田さんにお世話になった友人たちと一緒に協会に会った日も優しい笑顔で、たくさんお話をしてくれました。治りますようにと何度も祈りました。今でも、その現実を正面から受け入れることができません。

協会では太田さんのお姿を拝見することはできないと思うと、言葉で言い表せない悲しい気持ちでいっぱいです。

太田さんは協会の活動がある度、いつも日本の企業のこと、日本の文化のこと等お話してくれました。私は太田さんのお話が大好きでした。

協会に入ってから、学校や就職活動時の不安についても親身になって相談に乗ってくださいました。

私の結婚式にも出席いただき、子供が生まれた時も会いに来てくれました。今でもとても良い思い出です。

私だけでなく、太田さんに出会った数えきれない留学生全員が、共通の思いでいるはずです。これからも、ずっと、私たちを見守っててください。

太田さんはいつでも私たちの日本での恩師と家族のような存在です。親身にご指導とたくさん温かい思い出をありがとうございました。

太田さんのご冥福を心からお祈り申し上げます

太田さん！いままでありがとうございました！

陳 伊

(元) ㈱千葉銀行

(元) 千葉大学

昨年10月に太田さんから胃がんにかかり、余命が1年だと淡々と話していただきました。夏に会った時いつもより少し元気ないなぁと思いながら、まさかがんなんて信じられませんでした。有効的な治療方法はすでになく、薬も副作用が多いだけで、太田さんは通常の生活を最後まで維持したいと思い、治療をあきらめることを決意したと本人から聞きました。やはり太田さんらしい生き方を最後まで貫いたと思います。

太田さんと出会った年月はもうはっきり覚えていませんが、16年前のことだと思います。ただし、最初と出会った協会の懇親会のシーンはいまだに頭に残っています。その後はご縁があって、ずっと親切にしてください、私の人生は欠かせない父親の存在でした。

当時私の修士論文が教育関連だと知って、太田さんはご自分も教育にいろんなお勉強された経験もあり、関連資料をさがしていただき、アドバイスをたくさんいただきました。また就職時に日本企業の特徴、各企業の背景など本当に有意義の意見をたくさんいただきました。志望動機の添削まで丁寧にしていただき、もし太田さんと出会えていなかったら、間違いなく今の自分がいないと言えます。2006年に富士ゼロックスに入社の内定をいただいた時、父親のように喜んでいただき、お祝いまでしていただきました。

就職後、協会のOBになっても仕事やプライベートのご相談もいつも乗ってくれます。時には私がいままで全然考えたことのない観点も教えていただきます。太田さんが問題を広く、深く考える方だなぁとよく分かります。何かの悩みを相談するとき、自分の意見を押し付けるのではなく、視点を変えてみたらといつもアドバイスをいただきます。それで私の考え方を見直し、自ら問題解決する能力をアップさせました。

私が結婚後購入したマイホームは太田さんと同じ車で、息子が出産後も時には家族がらみで太田さんと食事をします。息子も太田おじいちゃんと何回か一緒に食事をしたことがあります。おととしの協会の忘年会に息子を連れて参加させていただきました。息子が太田さんからハーバード大学のキーホルダーをいただき、家に帰ったら、世界大学のランキングなどを調べるようになりました。息子はまだまだ小さいですが、でも世界って本当に広いなぁと覚えるようになり、いい刺激を受けました。太田さんはいつも人にヒントをくれています。またこのヒントは人にとって本当に上に向いていく力につながります。

太田さんとのエピソードを思い出すと、書ききれないほどあります。これからもう太田さんと会えなくなることが非常に悲しいですが、ただ太田さんに感謝の気持ちを伝えたく、太田さん！いままで本当ありがとうございました！安らかにお休みください。

2005年 大涌谷



TOYOTA見学



引き継いだ言葉

陳 思遥

(元)富士ゼロックス㈱ラフィネ小豆沢

(元)文化学園大学

さようならを告げるような追悼文をなかなか書けませんでした。何を書こうと考えたら、いつも既成概念と相違する論理を持ち、粹に囚われない考え方をしているお方なので、太田さんから頂いた私なりにとても勉強になった言葉を共有したいと思います。

多くの留学生にはこう感じたことはあるでしょう：海外留学しているなら、必ず一個人ではなく、母国の代表者として見られている——自分の喋りや動きなどが他人から見ると、「xx人はこういう喋りや動きをするものだ」と認識される。当たり前ですね、だって母国にいれば私たちも同じことしているだろうし、日本にいる今も外国人を見たらすぐこうした目で見られるでしょう。

しかしある日、太田さんに言われました：“君のことは中国人として見てない。”

“え、ちゃんと中国人ですけど。”と笑いながら返したら、“君のことは、チンシヨウとして見ている。”と言われました。

“君の名前はチンシヨウ、メガネかけて、デザインを勉強していた女の子だ。”

そう言ってくれたのです。

その言葉にびっくりした上、心底から嬉しく思いました。

留学して最初の頃にやはり周りにいい印象を与えたいし、中国人に悪い印象を持つ日本の方も多いので、恥をかかせない恥をかかせないとばかり考えて慎重に過ごした日々もありました。今はそこまでキャラ維持に頑張っていないが、その言葉を受けた時、一人の人間として見られるだけでこんなに肩軽くなるのかと思いました。

“今の人やマスコミがよく何々人とすぐ人種で人言うね、ふざけるな。だって目の前にいるのはちゃんと自分の性格と趣味を持っている誰とでも違う一人の人間でしょ。”

太田さんは言っていました。

“中国人・韓国人・アメリカ人・インド人じゃなく、デザイナーの陳さん・物理を勉強しているキムさん・撮影が好きなトム・バスケのできるバンダリさんとして見るべきだと思う。”

恥ずかしいことに自分もよく他人のことを人種で見えてしまいました。自分はその場で太田さんの言葉で肩の重みが抜けたら、他の外国人にも同じなんじゃないでしょうか。

人は国籍で見ないことって、こんなに大事なことなのだと始めて気づきました。

留学して本当に得られるのは、ずっと同じ環境の中では永遠に分からない既成概念への見直し方だと思います。それも、いつも太田さんから学んでいたことです。

いつもふざけているように見えるけど、実は彼は進んでいる考えを持つ、いつもわたしを導いてくれる先生なのです。

風呂上がりにドライヤーで髪の毛を乾かしている時、工作中ちょっとした空想の時、一人ご飯の時、よくふっと太田さんのことを思い出します。コロナが襲ってきたごろ、太田さんに体気をつけてのメールを送ろうとしたら、手が止まったこともありました。今思うと、世界中をパニック起こしている 100 年に 1 回とでも言える最大なコロナウイルス危機に、太田さんとは遭遇しなくて済んでよかったと思います。

協会で沢山の留学生と知り合い、中にとっても仲良くなった子も多くいました。太田さんはいなくなっても、私たちでこの太田さんが頑張ってくれたつながりの場を大事にしなければなりません。

また忘年会でまたみんなと会いに行きたいと思います。

太田篤氏への感謝

鄭 語璿 ティ ユーシェン

(元)株野村総合研究所 東寺尾寮

(元)慶應義塾大学

留学生として協会の活動を参加した際、太田様からお声をかけていただきまして、とても親切な方だなと感じました。太田様が留学生の福祉と生活を考慮し、留学生と企業団体の連合のために心を込めて尽くしたことは今でも思い出があり、自分もできる範囲に人々を助けてこの社会に貢献したいと思います。

鄭 語璿

ティ ユーシェン

太田さん、今まで大変お世話になりました

羅 瓊

(元)住友金属工業(株) 甲東寮

(元)神戸大学

こんな形で太田さんのことを書くのは最初だが、最後であることを思うと、とても寂しい気持ちがこみ上げてきます。

神戸大在学時の2007年夏から～卒業の2009年の春まで、協会のおかげで、当時の住友金属女子寮でお世話になりました。

最初に太田さんと会ったのは、協会雑誌のインタビューでした。留学生の状況に対しご理解があり、とても話しやすい方との印象でした。

2009年に就職とともに東京に引っ越しました。日々忙しい業務に追われ、周りを見る余裕が全くなかった時でした。太田さんとはたまに連絡を取るぐらいだが、その都度、激励の言葉をいただいております。

太田さんと2回目会ったのは協会の新大阪での講演会でした。就職活動で得た経験や感想を後輩の留学生達に話した同時に、当時仕事(前職)の苦勞話も披露しました。講演会が終わった後の立ち話で、太田さんからさりげなく、仕事の忙しさや大変さは決して無駄ではないよと励ましてくれました。

その後、自分は仕事やプライベートのこと(結婚、出産)に没頭し、毎日恐ろしいほど早く過ごしていました。いつの間にかソーシャルメディアの流行りに便乗して、太田さんとFacebookの友達になりました。メッセージで挨拶をさせてもらい、お互いに元気そうで何よりですねと会話した時の楽しい雰囲気はいまでも鮮明に覚えています。協会に寄付したときも、わざわざお礼のメールをいただき、本当に気さくな方だと感心しました。

太田さんはFacebookを通して、時々アップした協会の募集要項とイベントの画像、街頭の風景や季節の花写真などを見て、太田さんが元気そうかなと眺めながら、「いいね」ボタンを押したり、時にはコメントを書いたりしました。自分の中では、ちょっとした近況報告の役割でした。

ある日、太田さんFacebookの更新が急に止まりました。「お仕事が忙しいかな」と思っ

ていたところで、協会から悲しいお知らせを聞き、かなりショックを受けました。本当に残念な気持ちでいっぱいです。今 振り返ると、昨年12月まで太田さんはFacebookを更新していました。最後まで自分のことを一切語らず、太田さんらしいかなと思います

太田さん、今まで本当にありがとうございました。
ゆっくりお休みください！合掌

「太田篤様へ感謝の言葉」

リジャル ホム・バハドウル (Hom Bahadur Rijal)
(元) ㈱間組 三光寮, 新中村橋寮
(元) 芝浦工業大学

太田篤様が、今年の 2 月にお亡くなりになりましたことを心よりお悔やみ申し上げます。

天国へ旅立った太田様へ、私から感謝のメッセージを送りたいと思います。私が留学生であった頃は、現在よりも外国人が部屋を借りることは難しい時代でした。

私の場合は、建設会社の間組の社員寮をご紹介頂き 2 年間そこで生活しました。まず家賃が割安だったのは、大変助かりました。そして寮には食堂もあり温かい手作りの食事もとることができ、共同浴場も広くて気持ち良かったです。寮の職員の方々には親切にして頂き、寮に住む社員の方々とも交流を持ってました。また、協会主催の交流イベントや会社見学も良い経験と楽しい思い出になりました。

留学生にとって、住居が充実して日々の生活が安定していると、安心して勉学に集中することができます。太田様が留学生支援企業推進協会の設立と継続にご尽力されたことで、これまで数えきれないほどの留学生が幸せに日本で生活をし学ぶことができたと思います。

太田様には心より感謝しています。本当に有難うございました。

リジャル ホム・バハドウル (Hom Bahadur Rijal)

文集発刊に沿えて

2019年12月23日 私は友人の紹介で協会へ事務局長の面接を受けに来ました。

後日で他の方々から太田さんの印象を聞くこととなりますが、それよりは、ご本人は元気がなく、淡々と受け答えをされていました。後に、推察すると、もう相当に体力は消耗されていたのでしょう。協会の現状の話も淡々とされて、最後は自分の体の状況を率直に話されました。それでというわけではありませんでしたが、私は前向きな答えを述べて帰りました。翌年1月15日から協会に出勤しましたが、太田さんの姿はなく、後にお見舞いに病院に行った際に、「引継ぎできないで申し訳ない。」と律義に言われましたが、既に元気はありませんでした。そして2月7日に奥様から訃報を受け取ったのです。

私が、協会に勤務開始した途端に新型コロナの問題が発生し、起こる事象を一件、一件解決する事に追われて、忙しくなっていました。幾人か留学生のトラブルもありましたが、そこで知り合った留学生が一様に、太田さんに感謝の念を表していたのが印象に残りました。彼らは協会で会った短い時間の中で太田さんと知り合い、意思疎通をして、心の中に大きな存在として太田さんを認知していたのです。

その後だいぶ経って、太田さんが、昔の人脈をたどって私の人となり調べていた事も分かりました。「岡地ってどんな奴だと太田さんは私の先輩に聞いたそうです。」どうも、それで私が協会の面接を受けることになったらしい事がわかりました。留学生の太田さんについての印象はまちまちです。深く楽しく付き合った方と、そうでない方に分かれるようで、どうもその傾向は、太田さんは特に強そうだとも思いました。コロナ騒ぎでマスクが品薄になりましたが、中国在住の留学生OBから協会に品質の良い台湾製のマスクが送られてきます。中国の人がわざわざ台湾製です。卒業生の協会に対する愛情を感じました。その中心はどうも太田さんではないかと日々の活動で感じていました。太田さんを偲ぶ会が長引くコロナの影響で開催できそうにありません。協会に勤めれば勤めるほど、太田さんが活躍され、この協会を設立された頃と現在との間に時代の流れは感じますが、彼が留学生に注いだ愛情は残っています。そこで彼が一生懸命努力した一時代の証拠を残すことは重要ではないかと考えた次第です。多くの方々のご多忙中、ご賛同いただき この文集を発刊することができました。ご賛同された皆様には感謝いたしますとともに、寄稿に至らなかった方も懐かしい時代を思い出す契機となれば幸いです。ご協力、誠にありがとうございました。

時代により、役割は違いますが、太田さんの目指したものを継承していきたいと考えています。

2020年9月15日
事務局長 岡地 俊彦



氏 名 太 田 篤 (おおた・あつし)
生年月日 1953年5月17日生まれ
出身地 佐賀県
逝去日 2020年2月7日 (享年67)

経済同友会において教育関連の提言や事業を中心に幅広く活躍。特に、社員寮へ外国人留学生を受入れる契機となった「21世紀ニッポンプログラム」を提唱した提言『世界に開かれた活力ある国土の形成を求めて』を担当し、1989年の留学生支援企業協力推進協会設立に参画した。2004年度から同協会の専務理事・事務局長を務めた。

略 歴

1977年 3月 早稲田大学教育学部社会科社会科学専攻卒業
1977年 4月 経済同友会 入局
1985年 10月 同友会で「21世紀ニッポンプログラム」提唱を担当 (経済研究所研究員)
1989年 2月 留学生支援企業協力推進協会設立に参画 (副参事・経済研究所研究員)
2004年 4月 留学生支援企業協力推進協会専務理事・事務局長に就任
(経済同友会から兼務出向)
2016年 5月 経済同友会 退職
2016年 6月 留学生支援企業協力推進協会 専任 専務理事・事務局長
2020年 2月 現役のまま他界

編集・発行：公益財団法人 留学生支援企業協力推進協会 事務局
発行日：2020年9月15日